

第 73 期

事業報告書

（平成24年4月1日から）
（平成25年3月31日まで）

京極運輸商事株式会社

会 社 の 概 要

(平成25年 3月31日現在)

本	店	東京都中央区日本橋浜町一丁目 2 番 1 号
創	業	明治24年10月15日
設	立	昭和22年 5月12日
資	本	金 1 億 6 千万円
従	業	員 234名
営	業	種 目

1. 港湾運送業
2. 貨物自動車運送事業
3. 貨物運送取扱事業
4. 通関業
5. 貨物梱包業
6. 石油類容器の賃貸借、売買および洗滌修理業
7. 石油製品類およびその副産物売買業
8. 油槽清掃および消毒業
9. 倉庫業
10. 次の商品に関する輸出入および販売業
電子部品、鉄鋼、飼料原料、繊維、建築資材、家具、
洋品雑貨、食料品、酒類
11. 産業廃棄物処理業
12. 不動産、車両、荷役用機械および器具の賃貸借ならび
に売買
13. 船舶代理業
14. 機械器具・装置等の加工、組立て、解体、保守点検お
よび整備業務
15. 労働者派遣事業
16. 以上に関連する一切の業務

株 主 の 皆 様 へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、平成25年3月31日をもって第73期の決算を終了いたしましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、一昨年の大東日本震災からの復興需要や公共投資により緩やかながら回復基調にあったものの、欧州債務危機を背景とした新興国経済の減速によるアジア向け輸出の減少及び長期に亘る円高の影響による輸出の低迷が続き、国内経済の回復に遅れがみられました。

しかしながら、昨年の政権交代を機に、円安・株高が進み、景気の先行きに対する期待感を高めてきたところではありますが、景気対策の効果が現れるのは、まだ少し先になると思われまます。

物流業界におきましては、荷主間にばらつきがあるものの、国内消費の需要減による国内貨物輸送量の減少に加え、輸出貨物取扱量の回復も進まず、依然として厳しい状況が続いております。

こうした環境のなか、当社は引き続き営業力強化による売上拡大と業務効率化に努めてまいりましたが、結果は減収増益となりました。

部門別売上高を前期と比較しますと、貨物自動車運送事業及び貨物運送取扱事業部門では、化学品部門の輸送数量の減により、前期比6千4百万円の減少、港湾運送業及び通関業部門では、円高による輸出取扱量の減及び国内需要低迷による輸入取扱量の減により、前期比1千6百万円の減少、倉庫業部門では、主要荷主等の取扱量の減により、前期比2千3百万円の減少、ドラム缶等容器販売部門では、円高による主要顧客の販売不振により、前期比8千1百万円の減少となりました。景気低迷の影響は大きく、全部門の合計では、前期比1億8千4百万円減の57億5千7百万円となりました。

損益につきましては、売上の減少に伴う変動費の減少もありましたが、車両賃借料等固定費の削減に努めた結果、営業利益は前期比1千1百万円増の4千万円、経常利益は前期比1千1百万円増の7千万円、当期純利益は前期比2千3百万円増の3千8百万円となりました。

今後の見通しにつきましては、引き続き厳しい経営環境が予想されますが、当社といたしましては、全部門相互の連携を強化した営業展開を図り、売上増進に努め、併せて業務効率化による経費削減、人材育成、安全管理の徹底により、今一段の経営改善に努めてまいります。

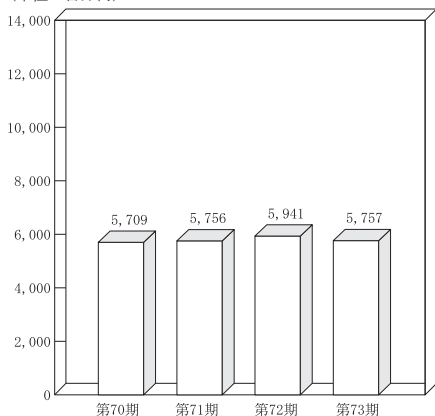
株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年 6 月

代表取締役社長 山 谷 純

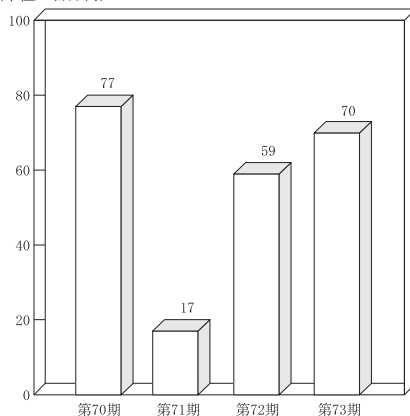
売上高の推移

(単位：百万円)



経常利益の推移

(単位：百万円)

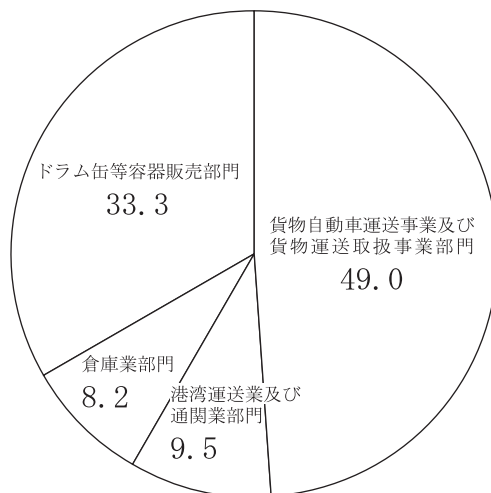


財産及び損益の状況の推移

区 分 \ 期 別	第70期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	第71期 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	第72期 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	第73期(当期) (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
売 上 高	5,709,005千円	5,755,25千円	5,941,464円	5,757,491千円
経常利益又は 経常損失(△)	77,982千円	17,309千円	587,49千円	69,682千円
当期純利益又は 当期純損失(△)	55,800千円	△17,430千円	15,602千円	38,248千円
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△)	17.46円	△5.45円	4.88円	11.97円
総 資 産	5,246,125千円	5,252,401千円	5,560,888千円	5,521,180千円
純 資 産	2,203,981千円	2,190,548千円	2,276,139千円	2,327,825千円

(注) 第71期以降の記載金額は千円未満を四捨五入、第70期以前の記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

第73期部門別売上高構成比（％）



部門別売上高の推移

（単位：千円）

期 別 部 門	第70期	第71期	第72期	第73期(当期)
	(平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)	(平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	(平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	(平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
	金 額	金 額	金 額	金 額
貨物自動車運送事業及び 貨物運送取扱事業部門	3,508,048	2,882,740	2,885,033	2,821,417
荷 役 作 業 部 門	56,455	—	—	—
港湾運送業及び通関業部門	576,932	526,424	563,863	547,497
倉 庫 業 部 門	401,3785	513,510	492,337	468,925
ドラム缶等容器販売部門	1,166,189	1,833,152	2,000,231	1,919,652
合 計	5,709,005	5,755,825	5,941,464	5,757,491

- （注） 1 第71期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」を適用しております。
 2 第71期以降の記載金額は千円未満を四捨五入、第70期以前の記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 12,000,000株
 2. 発行済株式の総数 3,200,000株（自己株式3,735株を含む。）
 3. 株 主 数 262名
 4. 大 株 主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
J X ホールディングス株式会社	977,271株	30.58%
石 田 春 久	175,200株	5.48%
明治安田生命保険相互会社	160,000株	5.01%
三菱UFJ信託銀行株式会社	159,000株	4.97%
株式会社三菱東京UFJ銀行	159,000株	4.97%
京北倉庫株式会社	156,583株	4.90%
京 極 紳	153,000株	4.79%
株式会社日輪	135,600株	4.24%
高橋産業株式会社	107,639株	3.37%
神奈川三菱ふそう自動車販売株式会社	101,000株	3.16%

(注) 持株比率は、自己株式(3,735株)を控除して計算しております。

重要な親会社および子会社の状況

重要な子会社の状況

会 社 名	資 本 金	出 資 比 率	主 要 な 事 業 内 容
株式会社TSトランスポート	90百万円	100.0%	貨物自動車運送事業
京極石油株式会社	40百万円	100.0%	石油製品の販売
日本タンクサービス株式会社	30百万円	96.7%	石油、化学品及びその他貯蔵タンクの修理、洗滌並びに配管工事

貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	2,079,273	流動負債	1,860,962
現金及び預金	804,855	買掛金	620,728
受取手形	133,399	短期借入金	718,000
売掛金	787,333	1年内返済予定の長期借入金	57,800
リース投資資産	17,689	リース債務	86,569
商貯蔵品	16,751	未払金	66,209
前払費用	12,591	未払費用	154,688
繰延税金資産	13,787	未払法人税等	31,001
関係会社短期貸付金	36,908	預り金	31,470
その他の貸倒引当金	146,400	賞与引当金	75,652
	111,095	その他の負債	18,845
	△1,535	固定負債	1,332,393
固定資産	3,441,907	長期借入金	384,000
有形固定資産	2,337,988	リース債務	207,908
建物	638,141	退職給付引当金	639,016
構築物	38,519	役員退職慰労引当金	34,057
機械及び装置	29,986	資産除去債務	65,514
車両運搬具	270,420	その他の負債	1,898
工具、器具及び備品	27,424	負債合計	3,193,355
土地	1,114,544	(純資産の部)	
リース資産	218,954	株主資本	2,144,510
無形固定資産	7,559	資本金	160,000
借地権	1,683	資本剰余金	1,072
ソフトウェア	1,296	資本準備金	1,072
その他の無形固定資産	4,580	利益剰余金	1,985,519
投資その他の資産	1,096,360	利益準備金	40,000
投資有価証券	545,623	その他利益剰余金	1,945,519
関係会社株式	378,201	圧縮記帳積立金	244,019
出資	57,030	別途積立金	1,261,000
関係会社長期貸付金	500	繰越利益剰余金	440,500
長期前払費用	2,110	自己株式	△2,081
リース投資資産	40,685	評価・換算差額等	183,315
繰延税金資産	17,753	その他有価証券評価差額金	183,315
その他の貸倒引当金	54,783		
	△325	純資産合計	2,327,825
資産合計	5,521,180	負債及び純資産合計	5,521,180

(記載金額は千円未満を四捨五入して表示しております。)

損 益 計 算 書

(自 平成24年 4月 1日)
(至 平成25年 3月 31日)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		5,757,491
売 上 原 価		5,369,309
売 上 総 利 益		388,182
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		348,498
営 業 利 益		39,684
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	2,669	
受 取 配 当 金	28,055	
雇 用 安 定 助 成 金	8,220	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	13,971	52,915
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	21,429	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	1,488	22,917
経 常 利 益		69,682
特 別 損 失		
固 定 資 産 処 分 損	1,377	1,377
税 引 前 当 期 純 利 益		68,305
法人税、住民税及び事業税	54,415	
法 人 税 等 調 整 額	△24,358	30,057
当 期 純 利 益		38,248

(記載金額は千円未満を四捨五入して表示しております。)

株主資本等変動計算書

(自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

残高及び変動事由	株 主 資 本					
	資 本 金	資本剰余金		利 益 剰 余 金		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		
				圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
平成24年4月1日残高	160,000	1,072	40,000	239,796	1,261,000	416,064
当期変動額						
剰余金の配当						△9,589
当期純利益						38,248
圧縮記帳積立金の積立				18,635		△18,635
圧縮記帳積立金の取崩				△14,412		14,412
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計				4,223		24,436
平成25年3月31日残高	160,000	1,072	40,000	244,019	1,261,000	440,500

(単位：千円)

残高及び変動事由	株 主 資 本			評価・換算 差 額 等	純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	
	利益剰余金 合 計				
平成24年4月1日残高	1,956,860	△2,059	2,115,873	160,266	2,276,139
当期変動額					
剰余金の配当	△9,589		△9,589		△9,589
当期純利益	38,248		38,248		38,248
圧縮記帳積立金の積立	—		—		—
圧縮記帳積立金の取崩	—		—		—
自己株式の取得		△22	△22		△22
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				23,049	23,049
当期変動額合計	28,659	△22	28,637	23,049	51,686
平成25年3月31日残高	1,985,519	△2,081	2,144,510	183,315	2,327,825

(記載金額は千円未満を四捨五入して表示しております。)

個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式…移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの…移動平均法による原価法

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商 品……………移動平均法による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品……………先入先出法（石油製品類は移動平均法）による原価法

（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

3. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）…定率法

なお、倉庫用建物のうち京浜支店の浜川崎倉庫は定額法で行っております。

また、平成10年4月1日以降取得した建物（附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は、建物が2～50年、構築物が2～50年、車両運搬具が2～7年であります。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）…定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付支給に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、会計基準変更時差異（725,389千円）については、15年による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務年数による定額法により、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の将来の退職慰労金支給に備えて、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップについては特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

長期借入金について金利スワップ取引を採用しております。

(3) ヘッジ方針

金利スワップ取引について長期借入金に対する金利変動リスクの軽減及び実質的な調達コストを軽減する目的で採用しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

特例処理を採用している金利スワップにつき有効性の評価を省略しております。

6. 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表に関する注記)

1.	有形固定資産の減価償却累計額	4,657,111千円
2.	関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)	
	関係会社に対する短期金銭債権	27,792千円
	関係会社に対する短期金銭債務	32,246千円
3.	担保に供している資産	
	土 地	1,015,440千円
	建 物	440,550千円
	投資有価証券	163,586千円
	計	1,619,576千円
	担保に係る債務の金額	
	短期借入金	618,000千円
	1年内返済予定の長期借入金	6,000千円
	長期借入金	317,000千円
	仕入債務保証	150,000千円
	計	1,091,000千円
4.	保証債務	
	仕入債務保証	
	京極石油株式会社	280,000千円
	借入等債務保証	
	日本容器株式会社	15,000千円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額	
営業取引(収入分)	18,460千円
営業取引(支出分)	193,581千円
営業取引以外の取引(収入分)	18,861千円
営業取引以外の取引(支出分)	410千円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当事業年度末日における発行済株式の数 普通株式 3,200,000株
2. 当事業年度末日における自己株式の数 普通株式 3,735株
3. 剰余金の配当に関する事項

当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決 議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基 準 日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	9,589千円	3円	平成24年 3月31日	平成24年 6月29日

当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

付 議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基 準 日	効力発生日
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	9,589千円	3円	平成25年 3月31日	平成25年 6月28日

(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産

未払事業税	3,177千円
賞与引当金	28,377千円
退職給付引当金	227,565千円
役員退職慰労引当金	12,775千円
資産除去債務	23,022千円
投資有価証券評価損	14,492千円
その他	7,660千円
繰延税金資産小計	317,068千円
評価性引当額	△39,656千円
繰延税金資産合計	277,412千円

繰延税金負債

資産除去債務に対応する除去費用	△3,077千円
その他有価証券評価差額金	△85,806千円
固定資産圧縮積立金	△133,868千円
繰延税金負債合計	△222,751千円
繰延税金資産の純額	54,661千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異のあるときの当該差異の原因となった主要な項目別内訳

法定実効税率	37.5%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	5.9%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△9.1%
住民税均等割額	4.9%
評価性引当額の増減	0.2%
実効税率差異	6.0%
その他	△1.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	44.0%

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

貸借対照表に計上した固定資産のほか、リースにより使用している重要な固定資産として電子計算機及びその他周辺機器並びに営業車両があります。

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、主に貨物自動車運送事業及び倉庫事業を行うための設備投資計画に照らしての必要な資金と短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

また、一時的な余資による金融資産の運用は行っておりません。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されており、投資有価証券は、主に取引先企業等との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価額の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、1年以内の支払期日であります。借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で6年後であります。借入金うち一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジの方針、ヘッジ有効性の評価方法等については、前述の「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「5. ヘッジ会計の方法」を参照ください。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、売掛金回収規定に従い、営業債権について各事業部門における回収責任者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

当期の決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表されております。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、投資有価証券について、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引については、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引に限定しており、社内規定に基づき経理部が管理を行っております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部所からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性維持のため、毎月資金予算会を開催し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

(1) 貸借対照表計上額、時価及び時価の算定方法

平成25年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません((注2)参照)。

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
資産			
現金及び預金	804,855	804,855	—
受取手形	133,399	133,399	—
売掛金	787,333	787,333	—
関係会社短期貸付金	146,400	146,400	—
投資有価証券	506,114	506,114	—
関係会社株式	185,692	185,692	—
関係会社長期貸付金	500	500	0
資産計	2,564,293	2,564,293	0
負債			
買掛金	620,728	620,728	—
短期借入金	718,000	718,000	—
1年内返済予定の長期借入金	57,800	57,800	—
長期借入金	384,000	382,876	△1,124
負債計	1,780,528	1,779,404	△1,124

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

現金及び預金、受取手形、売掛金及び関係会社短期貸付金

これらは全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

投資有価証券及び関係会社株式

株式は取引所の価格によっております。

関係会社長期貸付金

長期貸付金の時価については、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標を使用した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

買掛金、短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金

これらは全て短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	39,509
関係会社株式	192,509

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「投資有価証券」及び「関係会社株式」には含めておりません。

(2) 一定の期間に区分した金額

	1年内 (千円)	1年超5年内 (千円)	5年超10年内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	804,855	—	—	—
受取手形	133,399	—	—	—
売掛金	787,333	—	—	—
関係会社短期貸付金	146,400	—	—	—
関係会社長期貸付金	—	500	—	—
買掛金	620,728	—	—	—
短期借入金	718,000	—	—	—
1年内返済予定の長期借入金	57,800	—	—	—
長期借入金	—	384,000	—	—

(持分法損益等に関する注記)

関連会社に対する投資の金額	23,000千円
持分法を適用した場合の投資の金額	94,123千円
持分法を適用した場合の投資利益の金額	2,673千円

(関連当事者との取引に関する注記)

関係会社の子会社

属性	会社名	住所	資本金 (千円)	事業内容	議決権等の 被所有割合		関係内容		取引 内容 (注)2	取引金額 (千円) (注)1	科目	期末残高 (千円) (注)1
					直接 (%)	間接 (%)	役員 の 兼任等	事業上 の 関係				
関係会社の子会社	JX日鉱石エネルギー(株)	東京都千代田区	139,437,385	石油製品の精製・販売、ガスの輸入・販売、電力の発電・販売	—	—	—	石油製品類の配送・荷役他	ドラム缶購入他	42,109	買掛金	3,258
											未払費用	1,438
									貨物自動車運送等	1,376,909	売掛金	134,835
											未収入金	442
		立替金	4,651									

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件ないし取引条件の決定方針

JX日鉱石エネルギー(株)の石油製品類配送及び荷役作業他、運賃・作業料率、その他の取引については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、毎期交渉のうえ、一般取引条件と同様に決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額 | 728円30銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益金額 | 11円97銭 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

該当事項はありません。

役員 (平成25年6月27日現在)

代表取締役社長	山	谷	純
代表取締役専務	羽	生	康秀
常務取締役	湊		英夫
取締役	小	林	健一
取締役	千	代	敬三
取締役	中	野	規夫
取締役	金	子	啓一
常勤監査役	二	上	茂
監査役	岩	井	一雄
監査役	荒	木	一郎

株 主 メ モ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主 確定日	3月31日及び中間配当金の支払を行うときは9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL0120-232-711 (通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所	大阪証券取引所
公 告 の 方 法	東京都において発行する日本経済新聞 決算公告に代えて、貸借対照表の開示は、当社ホームページ (http://www.kyogoku.co.jp/kaisyagaiyou/zaimu/index.html) に掲載しております。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(※)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL0120-232-711 (通話料無料)
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ		株主名簿 管理人

(※) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL0120-232-711 (通話料無料)
○上記以外のお手続き、ご照会等		口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

京極運輸商事株式会社 (平成25年3月31日現在)

本店 東京都中央区日本橋浜町一丁目2番1号

容器営業部	} 同 上
輸送管理部	
輸送営業部	

川崎支店 川崎市川崎区浮島町12番6号
 京浜支店 川崎市川崎区鋼管通四丁目17番2号
 京葉支店 千葉県市原市八幡北町三丁目7番10号